

思いやる。

一生誇りを持って続けていける仕事をしたと考える医師になろうと思いました。
医師という仕事は人間対人間の仕事です。
患者さんと同じ痛みを分かち合い、理解し、思いやる気持ちが大切です。
信頼関係がなければ最良の医療は生まれません。
生涯学ぶ心を失わず、最高の知識と技術を身につけていけるよう努力していきます。

医学部 医学科 4回生

Nishio Minako
西尾 美奈子

医学部



女神像 / 「智」「仁」「勇」こそは医学を志す人間すべての鑑であり、大阪市立大学医学部が求め続けるかけがえのない理念である。

最新・最高の医療現場を目的のあたりについて

全人的な医療人を育成する

21世紀の医学・医療に向かって

医学部は、1944年4月に創立された大阪
市立医学専門学校から始まり、大阪市立医科
大学を経て、大阪市立大学医学部となり、現在
大阪市にある唯一の大学医学部です。今日に至
る58年間に卒業生が約3,650人に及び多く
は診療の第一線で臨床医として、また、大学、研
究所、医療行政機関などで活躍し、社会からも
高い評価を受けています。分子生物学、電子工
学、コンピュータなどの導入により、最近の医学
医療の進歩はめざましく、その進歩に対応する
ために、阿倍野キャンパスへの整備・充実が行われ
ました。1993年に新附属病院、1995年
12月に医学情報センター、1997年4月に医
療研修センター、1998年4月には看護短期
大学部、そして1998年9月に新学舎教育
研究棟が次々と開設されました。これを機会
に21世紀の医学医療に対応し、貢献していく体
制をつくるため、現在、教育、研究、診療体制の
改革に取り組んでいます。

智・仁・勇を備えた医師になるための 充実した教育内容

医学部学舎の入口にある写真(上)智・仁・
勇の三女神像をまよみてくださいます。向って右側

は智の女神、左手で本を抱えています。真中は仁
の女神、両手で薬壺をしっかりと支え、左側の
勇の女神は柔らかな手で月桂樹を持っています。
三女神が皆さんに伝えたいもの、それは医
師として高度の医療知識と技術の習得それに
培われた行動力、そして、最も大事なことは人
のもつ悩みや痛みを深く温かく受け入れる心
をもつことです。我が医学部はこの理念をもつ
医師の養成を目指しています。

こんな医師になってほしい

一般教育と専門教育をしっかりと勉強し、次に掲
げのような医師になってほしいと願っています。

- (1) 様々な人を区別なく温かく受け入れる心
を持ち、かつ幅広い視野を持つ医師
- (2) 基礎医学と臨床医学をバランスよく修得
し、医学知識と技術に秀でた医師
- (3) 専門知識を生かし、患者のニーズに適切
に対応できる医師
- (4) 国際的視野を持ち、世界に貢献する志を
持つ医師

こんな学生を求めています！

- 1. 人の健康に興味を持ち、人の悩みや痛みを
理解できる学生
- 2. 自然科学、特に人間科学に興味を持つ学生
- 3. 人間関係や社会生活を大切にしている学生

医学部はわかりQ & A

Q 本学医学部では、社会人の
学士入学制度はあるのですか？

A 現在のところ、学士入学制度は行っておりません。
医学部の入学試験は、1997年度より分離
分割方式による前期日程60名と後期日程20名で
行われています。学士入学制度に対する社会的要望も
高くなっていますので、より多様な資質を持つ学生を
受け入れるために、既に部の大学で実施されている学
士入学制度の導入を検討しています。

Q 6年間の学部を卒業すれば、
すぐに医師になれるのですか？

A 学部を卒業後、医師国家試験に合格すれば医
師免許を取得することができます。医師免許
により医療行為はできますが、臨床経験が少ないので、
研修医療機関で2年以上の研修を行うことが必要で
す。さらに、専門医(内科系、外科系など)のコースを
進むことにより、医師としての臨床経験を積みま
す。また、大学院へ進み、医学博士を取得することができ
ます。

Q 高齢化社会にむけて医学部では
どのような取り組みを行っていますか？

A 高齢化社会に対応して、老化の現象の研究、
老年疾患の原因解明と治療法の開発を行う
ために、1998年に老年医学研究部門を開設しまし
た。老化に関する分子制御、免疫学、生体防御、脳・神
経系、生体調節物質などの基礎研究や高齢者に多い
腫瘍疾患や循環器血管の病気を研究する臨床部門
を新しく設置し、専門教育を行っています。



授業科目・講座一覧

医学部



医学部における教育の内容

社会情勢の変化を考慮しながら、高度で、先進的かつ全人的医療を市民に提供するための医師の育成を目指しています。

医学部における教育は、杉本キャンパスにおける一般教育（1年次）から始まります。一般教育はもろろんのこと、入学直後には専門医の指導による心肺蘇生法講習会を開催します。8月には早期臨床実習（Early Exposure）を行い、一般病院での医療を実際に体験します。

2年～6年次まで阿倍野キャンパスで専門教育（基礎医学、臨床医学）を行います。基礎医学ではすぐれた研究者が直接、講義、実習の指導を行います。そして臨床医学の学習開始前に、基礎系の各講座を選択し、各講座の教員と共に研究生活を体験する修業実習を実施します。将来、国際的な医学水準を保つための語学力を修得するため、医学英語の授業があります。英語力の習得は卒業前の海外実習（選択BSL）に参加する人に好評です。1998年10月の医学部新学舎の完成と共に、講義室内のAV設備を初めとして、医学部の専門教育に対する施設、設備が一新されました。特に従来からの基礎医学部門に関連した実習設備などは、全国でトップレベルに達しています。

臨床医学教育では、臓器別講義、実習を受けるのもろろんですが、診療参加型の臨床実習をより充実させるため、客観的臨床能力試験（OSCE）をします。そして、一定の臨床技能の評価を行った後に、大学附属病院以外の教育関連病

院での臨床実習（選択BSL）を6年次に実施し、幅広い臨床技能を修得し、医療現場での経験を充実させることを目指しています。

良い医師を育成するためには常に教育システムの見直し、あるいは学生と教員の相互評価が必要です。現在もいわゆるprimary careを重視した、患者中心の医療ができる臨床医の育成を目的として教育内容を充実させるため、医学部教員の教育能力をさらに向上させるための取り組み（教育ワークショップ）を全教員をあげて行っています。

勉学にあたって他の学部との大きな違いは、将来皆さんが臨床医、あるいは医学研究者を目指していること、専門教育における科目がすべて必修であることです。人の病気は常に身体全体との関わりをもつて発現し、さらにその時代の社会構造との関連を抜きにしては健康な生活を営むことができない、ということを必修科目を通じて学ぶことができるからです。

医学部の附属施設

医学部附属病院

現在の病院は1993年に建替整備し、病床数約1,000床、外来20診療科、1日平均の外來患者数約3,000人を超える特定機能病院に発展しました。病院情報システム・中央病歴管理システムや高度先端医療を支える最新鋭の診断・治療設備と優秀な教員・医師・医療技術職員・看護師によって高度医療を実施すると共に、優れた医師の養成と、先端医療の研究開発を行っています。21世紀の医学・医療に向けて国際



的な大学病院を目指し、また近年中に臓器別診療科への再編などを行い市民への良質医療の提供に取り組んでいます。

附属刀根山結核研究所

結核をはじめとする抗酸菌感染症における分子機序の解明、更に、新規診断法や治療法の開発など、戦略的制圧研究に貢献しています。

医学情報センター

医学・医療に関する最新情報・技術を、大学内外の研究者及び医療関係者へ積極的に提供しています。

医療研修センター

医療関係者の研修に利用され特に、図書資料フロアは、大阪市立大学学術情報総合センター医学分館として運営されています。